

令和6年6月10日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

智頭町議会議員 谷口 雅人

安道 泰治

議員派遣結果報告書

令和6年4月3日に決定された議員派遣について、下記のとおり報告します。

記

1. 派遣名

- (1) 令和6年度町村議会議長・副議長研修会
- (2) 鳥取県町村議会議長会議長・副議長研修会

2. 目的

議会の重責を担う議長及び副議長を対象に開催される研修会に参加することにより、住民の代表機関として町村議会が果たすべき役割の重要性や課題を再認識し、議会・議員活動の一層の活性化に資する。

3. 派遣場所

- (1) 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 「東京国際フォーラム」
- (2) 東京都千代田区永田町1-11-35 「全国町村会館」

4. 期 日 令和6年5月21日(火)、22日(水)

5. 内容等

- (1) 令和6年度町村議会議長・副議長研修会

・開会あいさつ

全国町村議会議長会会長 渡部 孝樹 氏(北海道厚真町議会議長)

・研修テーマ、講師

- ①「議員のなり手不足は「住民自治の危機」:その打開の道を探る ー町村議会議員のなり手不足対策検討会(全国町村議会議長会)『町村議会議員のなり

手不足に潜む3つの危機』を読むー」

町村議会議員のなり手不足対策検討会委員長、大正大学教授
江藤 俊昭 氏

②「ハラスメントー自治体議員が注意すべきポイントー」
弁護士、元流山市政策法務室長 帖佐 直美 氏

③「将来の地方議会を担うのは誰か？ー若者、女性、勤労者が参画する地方
議会の実現ー」
慶應義塾大学法学部政治学科教授 谷口 尚子 氏

(2) 鳥取県町村議会議長会議長・副議長研修会

・演題、講師

「今後の健康・医療・介護政策に関して知っておくべきこと」
内閣府健康・医療戦略推進事務局参事官 日野 力 氏

6. 所感等

(1) 令和6年度町村議会議長・副議長研修会

① 初めに、なり手不足に潜む3つの危機を掲示された。1つ目は増加する無投票、定数割れと潜在的ななり手不足、2つ目は多様性を欠く議会では二元代表制の趣旨が損なわれること、3つ目は度重なる無投票が地方自治の弱体を招くことであり、国や都道府県にとっての危機と危機によって生ずる影響を説明された。

なり手不足の原因としてはなり手に響かない3条件(やりがい、環境、待遇)や地域コミュニティの限界(潜在的ななり手不足)、立候補、選挙における障壁であると説明があった。

この危機を防ぐため、議会としては、目先の選挙戦実現にのみ固執した短絡的な対策をとらないように注意する必要がある。「多様な人材の参画」を行い、低額な議員報酬を改善することは、なり手不足対策として非常に重要であるが、新しい報酬額に見合う活動内容や活動量の裏付けを取らないまま増額すると、住民からの不信感を招く。また、地方議員としての厚生年金加入が認められていない現状も立候補をためらう原因の一つと言える。

なり手不足の問題に特効薬はなく、対策は出来ることを確実に一つ一つ手を打つしかなく、時に物議を醸す事があっても強い信念の積み重ねで打開するしかない事を強く感じた。

② ハラスメントは、優越した地位や立場を利用した嫌がらせであり、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、マタニティハラスメント、モラルハラスメント等新しい用語が次々に生まれている。

自治体議員に求められることは、選挙で選ばれて公職に就いているということとは「良識の人」とであると住民が認めた人だということであると自覚を持ち、

法令を守ることはもちろん、社会人としての道徳や倫理観も大切な指針である。職員等に対するハラスメント事案や議員による不適切な行為の存在、住民から見た議会の魅力を失わせる行為なども議員のなり手不足の原因の一つとなっている面もある。

ハラスメントは相手を傷つけるだけでなく、議員自身ひいては議会全体の社会的信用を大きく損ねる行為だと感じた素晴らしい講演であった。議会、議員としての行動により責任を持ち定期的な研修が必要であると感じた。

- ③ 無投票当選者数の割合は年々増加している。若者、女性、勤労者が参画する地方議会の実現のためには様々な事が考えられるが、将来を担うのは男女に関係なく若者である「主権者教育」のあり方である。日本人は、民主主義は支持するが、地方議会に興味がある人は約20%（男性25%、女性15%）で男性は経済的要因、女性は現在の生活との「摺り合わせ」が障害になっている。多様な人材が立候補しやすい環境整備の推進と候補者への支援策や活動スタイルを柔軟にするなど、柔軟化も必要であり、年金制度や仕組みの改革などを検討し、議会内の意識改革も必要である。

様々な分析、提案があったが、本町の主権者教育は「智頭町百人委員会」が大きく評価できる事業と感じた。一朝一夕には効果は現れないものの、根気強く独自性を持っていけば人材は現れると感じた。

(2) 鳥取県町村議会議長会議長・副議長研修会

人口減少、労働力逼迫社会の到来、医療、介護ニーズの変化、鳥取県の人口、要介護者数の試算、住民の暮らしをどう支えるかなどを講演いただき、各町村の20～64歳人口、65歳以上人口、要介護者数などの説明を受けた。

これからは、全国的に訪問診療が増加し、要介護の人口が増加する。本町においては、訪問系介護は谷が多いため、地理的に非効率と考える。将来的には通所系や、居住系になっていくと思うが、町村単位も限界になり、今後は広域的に考えていく必要があると感じた。平均寿命と、健康寿命などを考え、介護保険制度を上手に使うよう考えながら議論し、要介護認定率が下がっていくように努力していく必要があると感じた講演であった。